

ポイント

◇◆特集◆◇

★高架下及び道路予定区域道路占用について★

(国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室)

高架下及び道路予定区域の道路占用については、平成21年1月26日付通達を発出し、既存の制度を見直しました。

本稿では、発出から1年が経過した通達のより一層の周知を図るため、改めてその概要等を紹介いたします。

★道路事業予定地および高架下等の有効活用について★

(大阪府 都市整備部 用地室 財産管理グループ
交通道路室 道路環境課 管理グループ)

大阪府は財政非常事態を宣言し、厳しい予算の見直しを行っています。

このような中、都市整備部では保有するあらゆる資産を有効活用し維持管理費に充当することとしました。

このことにより、事業予定地や高架下の道路などの関係資産を平成20年8月より、民間事業者が利用できるように順次公募しております。

また、平成21年1月26日国道利第17号で国土交通省道路局長より通知された「高架の道路の路面下及び道路予定区域の有効活用の推進について」を契機として、さらに道路予定区域を対象に含めて公募しておりますので、その取り組みについて紹介します。

◇◆訴訟事例紹介◆◇

★大型自動二輪車の運転中に、轍ぼれによりバランスを崩してH鋼ガードレールに衝突し負傷した事故について、道路管理瑕疵が争われた事例★

<平成20年10月15日 横浜地裁判決>

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

大型自動二輪車の運転中に、轍ぼれによりバランスを崩してH鋼ガードレールのH鋼部分に左足を衝突させ、左足関節の機能障害を残した。

本件事故は、轍ぼれ及びH鋼ガードレールの設置・管理瑕疵が原因であるとして、道路管理者に対し損害賠償を請求。

【判決要旨（一部認容）】

轍ぼれの存在それ自体をもって道路として予定ないし予期された性質を有しないと評価することはできないが、大型自動二輪車の走行に影響を与えるような轍ぼれは、通常備えるべき性状を欠いていたものと判断される。また、H鋼ガードレールの設置方法、場所の選択が相当でなく、本件道路の管理の瑕疵といえることができる。

◆◆TOPICS◆◆

★地域住民の協力による道路の維持管理について★

（国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所）

鳥取河川国道事務所における道路ボランティアを活用した取り組み内容について紹介し、地域住民の協力体制を築くことの有用性や道路管理者が今後展開していくべき方向性についての検討をしています。

我々道路管理者が今まで以上に道路ボランティアを重要視し、地域との連携をより一層深めていくことが重要である、ということを論述しています。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★土地区画整理事業による直轄国道の電線共同溝整備について★

（中部地方整備局 道路部 路政課）

電線共同溝の事業主体は電線共同溝の整備に関する特別措置法上、道路管理者となっています。土地区画整理事業者が電線共同溝を整備する場合にどのような手続きで行うべきなのでしょうか。電線共同溝は道路法上、道路附属物として位置づけられているため、道路法第24条の規定の適用を受けます。従って、土地区画整理事業者でも電線共同溝を整備することは可能ですが、その具体的手順などについて検討した事例を紹介させていただきます。

★道路橋りょう長寿命化修繕計画への取り組み★

（鳥取県 県土整備部 道路企画課）

鳥取県では、安全安心な道づくりを目指すとともに、道路維持管理における課題を解決するために、様々な取り組みを行っています。

今回は、これらの取り組みの中から、橋りょうを将来においても適切に維持管理していくことを目的に策定した「鳥取県道路橋りょう長寿命化修繕計画」について紹介します。

★道路空間を活用した街なかの賑わい作りの取組み★

(鳥取市 都市整備部 都市計画課 市街地整備室)

鳥取市においては、平成21年3月に市街地を取り巻く鳥取環状道路が開通したことに伴い、道路空間を活用した街なかの賑わい創出実験を2ヵ年にわたり実施しました。本稿では、実験内容及び検証の結果と課題、今後の展開についてご紹介します。

★民間の活力を生み出すハード整備 ～水木しげるロード～★

(境港市 産業環境部 貿易観光課)

境港市では、「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な漫画家水木しげる氏が描く妖怪ブロンズ像が並ぶ「水木しげるロード」の整備し、妖怪をテーマにした観光振興を行っています。本稿では、ロード整備の概要や経過、ロード整備後の市民や民間事業者による地域活性化の取組みについてご紹介します。

◆◆お知らせ◆◆

★平成22年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、毎年8月を「ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成22年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

◇ ◆編集後記◆ ◇

日本一と聞くと何を連想しますか。私は、富士山を連想します。他にもたくさんの日本一があるのに、なぜだろうと考えを巡らせてみると、幼少の頃歌った“ふじの山”の歌詞の中に“富士は日本一のやま〜♪”というフレーズがあるからかもしれないと思うに至ります。

ご存じの通り、山梨県と静岡県に位置する富士山は、日本最高峰の山で標高が 3,776 m あり、日本一高い山です（“富士山の様にみななろう”と標高を覚えましたね…）。

さて、同じ日本一でも日本国道最高地点がどこにあるか、みなさまはご存知ですか。私は、道路に携わる仕事をしていながら、知りませんでした。（まったくお恥ずかしい限りです・・・）

実は、先日、友人に誘われていった旅先が、その日本一の地だったのでご紹介したいと思います。その地点は、長野県と群馬県の県境を走る国道 292 号線の渋峠（しぶとうげ）にあります。渋峠は、横手山（よこてやま）と白根山（しらねさん）の間を通過する峠で、標高はなんと 2,172m。普段生活をしている所より空気が薄いため、少し走っただけで息が苦しくなり、少し頭痛を感じたりしました。地元の話では、3 日も滞在すれば空気の薄さには慣れるそうで、スポーツ選手が高地トレーニングを行うために訪れる地であることを教えていただきました。

渋峠は有名な観光地、志賀高原に位置しています。旅の目的はもちろんスキー。雪が上質であり、景観もすばらしいと聞き、今回初めて訪れました。しかしながら、運悪く大寒波襲来！！地吹雪によるホワイトアウト（視界が白一色となり、方向などが識別不能となる現象）。下山するためのルートが雪崩により閉ざされ……。雪崩により、怪我をされた方がいるとの話も聞き、日本一を味わうとともに、雪山の怖さを知る旅になってしまいました。もちろん、リフトは運休。翌日の午後に天候が回復したものの、依然地吹雪が強く、滑走は断念せざるを得ませんでした……。

除雪作業などの通行の確保にご尽力いただいた管理者や地元の方のおかげで、なんとか無事に帰ってくることができましたが、雪山の怖さを知るとともに、雪国の道路はまさしくライフラインなんだと痛感しました。

冬季の道路管理については、道路行政セミナーで自治体等の道路管理者の方々にご寄稿いただいている話題です。自身で体験でき、より身近に感じることができました。まだ降雪が続き、暖くなる頃には雪崩の危険性が高まることと思います。訪れる人々の安全の確保を図ることも重要なことですが、雪に慣れている管理者や地元の方々においても、十分な注意をして欲しく思います。(U)